

北の農職家

KITA NO NOUSYOKUKA

2023

1

No.313

迎春



女性部とフレッシュ・ミズとの二部合同豆腐作り

開催日：令和4年12月9日



JAつべつ

令和5年度新年挨拶



津別町農業協同組合

代表理事組合長

佐野成昭



令和5年の年頭に際し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様にかかれましては、明るい話題が無く、農業経営がより厳しい状況に直面しております。今こそ農業の基本に立ち返り、今自分達が出来る事を一つずつ取り組み、協同の力と政治力で支え合い、先の見えない難題に取り組んで行く所存であります。

また、日頃よりJAつべつの信用、経済、販売、購買、利用事業と広範囲に御利用いただいていることに対して重ねて感謝とお礼を申し上げます。

世界を震撼させたコロナ禍も無くなった訳ではなく一進一退を繰り返している状況の中、地域経済も少しずつではありますが回復基調にあり、空港や観光地にはインバウンドの人達も見られるようになりました。北海道は第一次産業と観光が地域経済を牽引しているだけに明るい兆しが見えるものの、農産物の需要減退による砂糖、牛乳の過剰在庫が大きな問題となっております。それに加えてロシアによるウクライナ侵攻と円安による資材高騰により先が見通せない状況にあり、これからの営農に支障が表れて来ています。一日も早く通常の営農活動が出来ることを心から願っている所です。

昨年の作況については、春の植え付け

作業が順調に進んだものの6、7月にとまった降雨や降雹があり、玉葱、てん菜、馬鈴薯、デントコーンに被害が出ました。その後も曇天、日照不足もあり麦は平年作を若干下回る結果となりましたが、その他の作物については概ね平年作以上の取扱いとなりました。

酪農では牛乳余剰からの生産抑制、畜産では牛の個体販売価格低迷となっており、更には配合飼料の高騰により、酪農・畜産農家は大変厳しい経営環境からJAグループ全体でこの環境を変えるべく国へ要請活動を行っている所でもあります。少しでも生産者の皆様が今後も安心して営農活動が続けられるための確実な予算取り、所得政策、在庫処理、飼料高騰対策、加工乳価、補給金の値上げ確保等、厳しい交渉になりますが根気強く要請活動を行って行く所存です。生産者の皆様もこの危機的な状況を乗り越えるためにも、JAがやれる事、自分達がやれる事を両輪となりこの難局を協同の力で乗り越えなくてはなりません。

つべつ農業の特徴は、祖先から受け継いだ土地を余すことなく、気象、土地条件に合わせて作業体系を工夫しながら畑作、酪農、畜産とバランス良く耕作されている事です。この体系を維持、発展させるために ①新規参入・担い手確保、②鳥

獣防止対策、③スマート農業の実践による不感地区解消など具体的課題の改善が重要であり課題解決に向け取進めて参ります。

また、令和5年には、麦乾燥工場の施設大改修、新スケールの建築を計画しております。各種資材費の高騰もあり当初予算より増額となりましたが、現状のままで将来に不安を残す事に繋がることより、今回の提案とさせていただきます。反面、今回の大型投資計画により、一層のJA財務基盤と安定経営を図ることが責務であり、組合員皆様の更なる利用率向上と高品質な小麦の生産にご理解とご協力をお願い申し上げます。最後に申し上げますが、農水省では令和6

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

代表理事組合長

常務理事

職務代行理事

理事(総務常任委員長)

理事(経済常任委員長)

理事

理事

代表監事

監事

理事

佐野成昭

岡本幸年

安部仁

金一和美

石川賢一

迫田浩司

稲部隆浩

長瀬信一

十河誠

喪中につき年頭のご挨拶を失礼させていただきます

鹿中徳三郎

年に向け新たな農業基本法の策定に入りました。我が国の食料は他国への依存度が高く、自然災害、気象異変、経済異変、感染症等、影響を受け易いことより今以上の食糧生産が必要となって参ります。現在推進しているスマート農業では最新技術を駆使して生産性を高め、省力化を推し進めることで食料自給率の向上が図れると考えております。人のせいにするのでは無く、自分の役割を発揮し、前に向かって進んでいく事で津別町農業の将来に必ず繋がると信じています。

本年も組合員、ご家族様のご健康で災害も無く豊穡の出来秋を迎える事が出来ますよう心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和5年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

代表理事会長 小野寺 俊 幸



新年あけましておめでとございます。組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業につきましては、春先は天候に恵まれ地域によって少雨の影響が見られたものの、その後は順調に推移しておりました。ただ、6月の降雹、8月の記録的な大雨、9月の台風により、一部地域、作物によっては、生育に大きな影響が出たものがありました。収穫作業は総じて順調に進み、天候の影響を大きく受けた作物を除いては平年作を確保することができました。

しかしながら、新型コロナウイルスとの戦いが長期化し、各農畜産物の消費は依然として低迷しております。

さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大であり、北海道・全国連とも連携し、JAGグループ北海道としてしっかりとその対応を図って参ります。

コロナ禍、国際紛争によって、世界の

食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっております。

JAGグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組んで参ります。

今年、第30回JAG北海道大会の実践2年度目となります。

決議された将来ビジョンである、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の実現に向け、様々な課題を解決する必要があります。

農業を取り巻く環境は厳しい状況が続いており、このような状況であるからこそ、協同組合運動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越える必要があります。

また、消費者に対しては、JAGグループが提唱する、自国の国民が消費する食料はできるだけ自国で生産するという

「国産産物」に対する理解を求め、消費者の行動変容に結びつけていくことが望まれます。

このためには、組合員、消費者との「対話」が重要となりますので、組合員・役職員が一丸となつてしっかりと取り組んで参りましょう。

結びになりますが、本年は卯年です。卯は穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」、また、その跳躍する姿か

開拓者の熱い思いを継ぐ



津別町長 佐藤 多一

新年明けましておめでとございます。農業者の皆様におかれましては、日々の営農を通じて地域農業と地域社会の振興発展にご尽力いただき、改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、この度の町長選挙におきましては、町民の皆様をはじめ、各方面から力強いご支援と心温まるご厚情をいただき、無投票当選の栄に浴し、五度町政の重責を担わせていただきましたこととなりました。お寄せいただきました期待と信頼にお応えできるよう、志を高くもち町づくりを進めて参ります。

いま町は本格的な寒さを迎え、新型コロナウイルスはその活動を活発化させています。長引くコロナ禍の中、ウイルスの脅威に慣れてしまったのか、ワクチン接種は回を追うたびに減少しています。発生当初のような恐怖感にはワクチンの開

から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。他にも「植物の成長」という意味もあり、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われています。この謂われにあやかり、本年が豊穡の年となること、新型コロナウイルスの一日も早い終息と皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

発により薄らいできたとはいえ、毎日報道される死者数は決して侮れる数字ではありません。町民の皆様におかれましては、重症化しないようワクチン接種を積極的に受けられ、加えて日常生活での対策をしっかりとしていただくことを切に願います。

さて、昨年9月の日本経済新聞のポリシーフォーカス欄に、「オランダ農業研究開発重視。輸出世界2位、狭い国土克服」という記事が載っていました。オランダは九州とほぼ同じ面積ですが、限りある耕作地で効率よく、付加価値の高い農産品をつくるために知恵を絞っています。その背景には、研究開発やスタートアップの育成に力を入れ、先端技術の導入を躊躇しない姿勢があると言われています。オランダは最初から農業輸出大国だったわけではなく、1980年代に欧

州統合が進む中、南欧から安価な野菜や果物が流入し、オランダの農家は大きな打撃を受けました。こうしたことを契機に官民共同で生産性と効率性を求め、利益率の高い農産物に絞り込んだ農業に大きく舵を切り今日に至っています。

日本の農産物も2020年11月に国がとりまとめた「農産物輸出拡大戦略」に基づき、昨年、一昨年と輸出額は1兆円を超えています。2025年には2兆円、2030年には5兆円に拡大することを目指し、牛肉や日本酒など日本が強みとする商品を重点品目に指定し、輸出向けの生産に取り組む輸出産地の支援を行うとしています。円安が追い風になっていますが、日本の農産物がしっかりと外貨を獲得する視点も必要だと考えます。

では津別町の農業状況を見てみましょう。津別町では毎年「農作物作付動向調査」を実施しています。ここ5年間（平成30年～令和4年）の推移を見ますと、法人を含む農家戸数は154戸から138戸と16戸減少し、農業従事者数は479人から439人と40人減少しています。畑作物の作付は、小麦・大麦の麦類が1,389haから1,627haと238ha増加、小豆・大豆・いんげんの豆類は572haから584haと12ha増加、馬鈴薯は631haから540haと91ha減少、玉ねぎを中心とする野菜は444haから469haと25ha増加、てん菜を中心とする工芸作物は792haから740haと52ha減少、牧草・デントコーンなどの飼料作物は1,071haから1,016haと55ha減少、緑肥を中心とするその他作物は51haから89haと38ha増加し、畑作物全体では4,950haから5,065haと85ha増加しています。一方家畜は、乳用牛が1,969頭から1,690頭と279頭減少しましたが、肉用牛は5,

432頭から6,294頭と862頭増加しています。肉用牛の増が目につきませんが、それ以外はそう大きな変化は見られません。ただ、農家戸数と農業従事者の減少が気になります。

農業にとって農地の基盤整備は大変重要であり、平成27年度から始まった国営農地再編整備事業は令和4年度で93%終了し、残り2年で完了します。開始当初から見ますと資材等の値上がりも顕著になりましたが、何とか完成にたどり着くものと感慨深く思うところです。この間、「スマート農業」という言葉もすっかり耳に馴染み、若い農業者を中心に生産手段として積極的に導入されています。開拓に入った方たちがこの光景を見たならば、間違いなく腰を抜かすことでしょうか。しかし、そうした山や森を熱い思いをもって切り開いた先人たちがいたからこそ今日があるのは紛れもない事実です。農業はこれからも進歩の歩みを止めることにはないでしょう。この町の農業の未来に大いに期待したいと思います。

結びに、農業者の皆様にとって本年が輝かしい年となることを願いますとともに、JAつべつ組合員と役員者の皆様はもとより、すべての農業関係者の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。



年頭のご挨拶



網走農業改良普及センター美幌支所

支所長 遠藤良恵

新年あけましておめでとうございます。令和5年の新春を、ご家族の皆さま、地域の皆さまと共に迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、普及センターの活動にご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

昨年を振り返りましても、新型コロナウイルス感染症対策を意識した中での日々の暮らしと生産活動が続き、地域の交流活動や研修や学習の機会は、自重せざるを得ないことが多かったように思います。

また、平和を信じ続けたい思いとは裏腹に、ロシアによるウクライナ侵攻が発生し、国際情勢下での変化が、農業経営を取り巻く環境にも大きな影響を及ぼしている昨今です。

さて、昨年の気象経過を振り返りますと、越冬期間の土壌凍結は最大31cmと近年の中では浅い深度でした。融雪期は、平年よりやや遅かったものの、耕起はじめから播種移植時期にかけては、高温少雨で推移しました。

6月初旬は低温となり、その後8月まで多雨傾向で推移しました。10月15日までの農耕期間を通じて、気温は平年並みに推移しました。

近年、各種気象災害は多発傾向にある

中、4月27～28日の強風によりたまねぎに茎葉の折損が生じました。

6月18日～20日には、管内で広く降電や集中豪雨が 발생し、たまねぎで茎葉の折損・倒伏、てんさいで作物の流出、大豆では場冠水・作物の流出が発生しました。

7月4日には再び豪雨と降電が発生し、たまねぎ・小麦類・小豆・大豆・ばれいしょ・てんさい・とうもろこし（サイレージ用）のほ場で、茎葉折損・倒伏、土砂流亡、冠水等の被害に見舞われました。

いずれの発生時も、関係機関と連携し臨時技術対策を发出し、特に被害の大きかったたまねぎは、追跡調査も実施して災害時に備える対策対応について検討を行ってきました。

各作物の収量は、秋まき小麦・春まき小麦、ばれいしょは平年に対しやや低く、豆類は総じて平年並でした。てんさいも糖分は平年に対しやや低いながら、収量はやや増となりました。園芸作物では、たまねぎは増収となりました。

作物生産には当然気象要因が大きく関わってきますが、近年の気象災害を踏まえても気象に左右されない、栽培技術の組み立て、経験則と判断力が大切となっています。

地域の栽培技術は、すでに構築されて

新年のご挨拶



網走川流域農業・漁業連携推進協議会
(網走漁業協同組合代表理事組合長)



新谷 哲也

いる基本技術の上に、新たな知見による地域実証や検討を付加し、更なる生産性の向上につなげることをして、全ては「人」の手により定着していきます。

普及センターの活動は、地域に即した技術の習得や構築にむけて、あるいは地域の活性化や発展のために、地域の「人」を支援することが一番の目的です。

昨年は、町内の若手就農者、新規就農者、就農研修生らを対象にした「ふるさと塾」が、3年ぶりに開催することとなり、普及センターも学習企画の一端を担い、若手職員を含めてフルメンバーで対応させていただいております。

ふるさと塾は、対象者の意欲と熱意が高いことはもちろんですが、学びを応援する地域の指導的立場の農業者、親世代のバックアップ体制が築かれていることが大きな強みでもあります。

若手農業者、企画支援を行う関係機関、地域の応援者たち、全てがリンクして行くことが大切と思い、将来の地域農業を担う「人」のネットワークを牽引することも、普及センターの大きな使命と考えています。

「卯年」。芽を出した植物が成長して茎や葉が目に見えて大きく成長する年といわれています。また、うさぎは飛び跳ねることから豊穡、子孫繁栄のシンボルともいわれています。

普及センターの活動も、うさぎが跳びはねるごとく、あらためて積極的に地域に足を運ぶことを目標としています。そして、作物のひとつひとつが芽を出し、葉が大きく育つように、地域農業振興に即しての支援を重ねていきたいと思っております。

結びとなりますが、本年が輝かしい年となるとともに、皆さまの益々のご多幸とご発展をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

津別町農業協同組合の組合員の皆様、役職員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

平素より、網走川流域農業・漁業連携推進協議会(だいちとうみの会)の運営に関しましてご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

津別町農業協同組合と網走漁業協同組合、西網走漁業協同組合は平成19年以来、産業と流域環境について、継続して話し合いを行い、農業と漁業が連携して流域の環境を保全していこうと、平成22年11月25日共同宣言を致しました。農業と漁業は、網走川流域の中心的産業であり、流域の環境保全に向けた取り組みを進め、そのことにより産業の持続性を強固にし、もっと「美味しい」「安全・安心」な食糧生産を目指し、網走川流域の繋がりを意識して、お互いの産業を尊重・理解し、相互に多面的支援を行い、豊かな自然環境と共存しながら持続的に発展することを目的としたものです。

この共同宣言の内容を実現するために、網走川流域農業・漁業連携推進協議会(だいちとうみの会)を、平成23年5月20日に設立いたしました。協議会事業として令和4年度は、3年ぶりの開催となった大地と海をつなぐ植樹を、関係者総勢170名の参加を頂き400本の苗

木を津別町内網走川河川敷きに植樹致しました。又、出前授業も本年度から再開し、少しずつではありますが以前の活動に戻りつつあります。

網走川流域が育む独自の文化や風土、そして豊かな海と大地の恵みを次世代に引きつぐことのできる地域協働による人・産業・自然が共生する流域社会を目指すために、流域住民をはじめとした、網走川流域に関わる各種団体、企業、行政機関、大学、研究機関が交流・連携・情報交換ができる機会をつくり、人的ネットワークを築き、網走川流域の連携の輪を更に広げるために「だいちとうみの会」とは別組織となります。「網走川流域の会」を平成27年に設立し、令和4年度の通常総会については出席者制限しコロナウイルス感染症防止対策を徹底した中で、4月15日午後2時から美幌町農業協同組合2階大ホールにて開催を致しました。総会終了後会員5名の方々による「活動発表会」が開催されました。

又、網走川流域で有機農業や減農薬など河川の環境負荷低減につながる取組みを実践している個人や団体組織に対して、網走漁業協同組合と西網走漁業協同組合から感謝と敬意を表す目的として、「漁業者からの応援証」を、オホーツク高橋農場、キッチンカフェビオトップへ贈呈

を致しました。漁業者からの応援証については、これまで21団体に贈呈しておりますが、平成29年12月7日に設立された「網走漁協・西網走漁協からの応援証受証者連携協議会」(応援証受証者の会・山田照夫会長)の事業として、7月15日に令和4年度受証された2団体の、活動状況確認及び研修会を実施し、会員相互の連携・交流・情報交換が出来る機会をつくる活動が行われており、この応援証が少しでも農畜産物の消費拡大、網走川流域の環境保全のお役に立てればと思っております。

今後の国内経済見通しについては、新型コロナウイルスの水準対策が緩和され、円安が進む中でのインバウンド需要が期待されるなど行動制限緩和により、サービス消費は持ち直し傾向が続くものの、物価高への備えや実質賃金の目減りにより消費全体の勢いは鈍い状況が続くと予想されています。

加えて、ウクライナ情勢や中国のゼロコロナ政策、世界的なエネルギー・食料不足の事態が想定されるなど下振れするリスクは高いと分析されています。網走川流域の豊かな自然を大切に、安全・安心な農畜産物、水産物を消費者の皆様へ届けることが我々生産者の使命だと思っております。

農業者、漁業者が連携するという全国でも珍しいこの取り組みを、たくさんの方に伝え理解をいただけるよう、これからもより一層皆様と一緒に頑張りたいと思っております。

結びになりますが、新しい年が皆様にとりまして良い年でありますようご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

年男・年女

新年の抱負



〈大昭〉
兼平 秀人さん
(60歳)

30年以上前の事になりますが、大きな釧路沖地震があった日、JA職員たちと寒いバスでニセコのスキー場に出かけてスキーを楽しんだ事は、今では良い思い出です。今は、仲間とゴルフや農閑期にゴルフ旅行に出かける事が楽しみとなっています。昨今の畑作営農は、毎年の経営が気象条件と農家を取り巻く環境により変化に富んでいます。昨年はますますの作柄でホッとしております。今年も作物全般が平年並み以上に豊作になる様願っています。



〈西達美〉
高田 秀幸さん
(72歳)
高田優治さんの父

10年前に大病で、今も1カ月に1回札幌に通院しています。春になると、ビートや馬鈴薯と豆類をトラクターで植え付けをしています。夏は、庭木の剪定で一週間くらい脚立に登ったり降りたりと汗を流しています。秋には、収穫物をハーベスターで手伝いをしています。今は肥料や農薬など円安の中、高騰している状況であります。早く落ち着いてほしいですね。



〈岩富〉
矢作 友紀さん
(36歳)
夫：(株)矢作農園
矢作祐樹さん

目標達成のために一歩ずつ着実に進み、兔のように飛躍してステキな1年にしていきたいです。昨年以上に、ワクワクする事が盛り沢山で、自分らしい年になるよう楽しみたいですね。



〈大昭〉
小野塚 一郎さん
(48歳)

就農して18年目となりました。酪農専業からスタートしましたが、和牛繁殖を始めて今は酪畜複合経営をしています。おかげさまで、和牛子牛の価格がよかったりと良い事もありますが、コロナ禍の現在、乳製品需要減、畜産物価格の下落、飼料などの資材高騰により経営は厳しい状況です。この状況が改善するのを願いつつ、経営の見直しを図って、この苦境を乗り越えられるよう努力したいと思っています。



JA情報館



系統連合会との意見交換会を開催

11月25日(金) J A大会議室に於いて、系統連合会との意見交換会を開催致しました。この取組は、系統連合会との定期的な情報交換を通して、現状の農業・そして農協の課題を洗い出し、今後の組織運営に役立てていくことを目的として毎年開催しております。しかしながら、令和2年、3年度と新型コロナの影響により余儀なく中止となり、今回2年越しの開催となりました。

各系統連合会からは、第30回 J A北海道大会に掲げた取組の進捗状況や資材高騰対策の説明、J Aからは国の各農業施策に対する系統連合会の強い関わり等を要望致しました。

～出席者は以下の通り～

【系統連合会】

- ・ J A北海道中央会北見支所 松原支所長
- ・ J A北海道信連北見支所 村本支所長
- ・ ホクレン北見支所 谷 支所長
- ・ 全共連北海道本部北見支所 山口支所長

【J A】

佐野組合長・岡本常務・安部職務代行・金一理事・石川理事・迫田理事・鹿中理事・稲部理事・長瀬代表監事・各部課長の18名



地区懇談会を開催

12月1日(木)～2日(金)の2日間の日程で、12営農組合毎3班体制にて地区懇談会を開催しました。役職員が各営農組合へ訪問し、本年度の農業情勢報告・J A主要事業状況等の報告がされました。また、麦乾施設大改修補助事業・令和5年度よりJ A利用事業となるてん菜コントラクター事業・(有)だいち各種利用料金の変更等について提案しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、出席者のマスク着用・消毒の実施等の感染防止対策を徹底した上での開催となりました。次回の地区懇談会は3月上旬を予定しています。



▲第9営農組合(恩根地区)



▲第12営農組合(双葉・沼沢・本岐・木樋・二又)



▲第10営農組合(大昭)



JA情報館



第4回ふるさと塾開催

11月30日入塾者23名のうち午前中の座学と現地視察9名、午後からの工場見学には更に5名加わり、合計14名出席のもと第4回ふるさと塾を開催しました。

今回の講義内容は、座学を網走農業改良普及センター美幌支所 林主査より牛の哺乳期管理について説明していただきました。牛は人と違い子牛が母牛の初乳を飲むことで免疫を獲得する。ブリックス計(糖度計)で初乳を計測し、22%以上の良質な初乳であることや血乳・乳房炎でないことを確認し、数値が低い場合は初乳製剤や冷凍初乳を活用する。基本は、良質な初乳を生後6時間以内にお腹いっぱい飲ませる事が大事ですと話してくれました。

座学の後、現地研修として活汲地区 北野淳志農業士の牛舎にて牛の飼養管理について北野農業士より講義を受けました。午後からは、ホクレン肥料(株)北見工場を見学しました。齊藤主任からホクレン肥料(株)工場についての概要説明を受けました。塾生からは「工場内を見学させてもらい、製造工程を知ることが出来、大変勉強になりました」という声がありました。次回は、生育過程及び栽培技術のフォローアップを中心とした講義とオホーツクビーンズファクトリーの視察を予定しています。



▲林主査



▲ブリックス計(糖度計)



▲北野農業士の牛舎にて



▲北野農業士の牛舎にて



▲ホクレン肥料(株)北見工場にて



▲ホクレン肥料(株)北見工場にて



▲ホクレン肥料(株)北見工場にて



▲ホクレン肥料(株)北見工場にて



JAつべつ青年部活動をSNSページにて随時更新中です！是非ご覧下さい！Facebook、Instagram

Facebook QR Instagram QR





JA情報館



インボイス制度研修会の開催

12月6日組合員21名参加のもとJAつべつ2階大会議室にて、特定非営利法人 農業支援センター北海道より派遣依頼を受けた税理士法人 松井一晃事務所 中西正志税理士を講師に招き、JA組合員対象のインボイス制度研修会を開催しました。

内容は、制度のあらましと申請方法、インボイスを取得しなかった場合のデメリット等の説明を受けました。質疑応答では、農機等の個人売買や任意の利用組

合における扱い等の質問が出ていました。後日、組合員より疑問等があった場合は、JAが仲介し農業支援センター北海道よりアドバイスを受ける事として研修会は終了しました。



▲中西 正志税理士

令和5年10月1日より消費税の適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入されますが、令和5年10月1日からインボイス発行事業者になる場合は、原則として令和5年3月31日までに登録申請手続きを行う必要があります。導入後は消費税を納める必要のある企業や個人事業主はもちろん、免税事業者にもご自身の事業の内容などに応じて、登録の可否などインボイス制度にどのように対応するかご検討下さい。

令和4年度北見工業大学との連携協定に基づく実証研究報告会開催

12月15日JA会議室にて報道機関を含めて34名の出席で「令和4年度 北見工業大学との連携協定に基づく実証研究報告会」を開催しました。

北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センター 浪越毅副センター長より開会の挨拶をいただいた後、報告内容は①JAつべつ有岡MRマネージャーより留学生インターシップ及び大学生協との取組について、②



▲白川准教授 (Web)

Web参加の白川准教授より融雪水の利活用について、③2014年～2015年まで北海道大学に在籍されていたカナダ ダルハウジン大学のアハド教授よりカナダの農業情勢について、④楊准教授よりスマートトラクターと土壤採種機ロボットについて、⑤宇都准教授と大野教授より貝殻粒状石灰及び土壤診断から見た玉葱の生育結果について、⑥浪越准教授より玉葱種子のコーティング（直播対応）と汚泥肥料について、⑦三枝准教授より津別町との連携探索やカーボンニュートラル（温泉ボーリング跡）について説明をいただきました。



▲浪越 毅
副センター長



▲有岡 敏也
MRマネージャー



▲アハド教授



▲楊准教授



▲宇都准教授



▲三枝准教授



▲大野教授



JA情報館



職員全体会議にて職場研修（OJT）を開催

12月8日(木)業務終了後、全職員を対象とした職員全体会議を49名の職員参加のもと開催しました。開催にあたり、佐野組合長から令和4年度の農業情勢等について報告があり、『6～7月の降雹・豪雨により玉葱・馬鈴薯・甜菜・デントコーンが被害を受け、小麦は前年度よりやや収量減ではありましたが、他の作物については平年並の出来高でありました。酪農・畜産については生産抑制や牛の価格低迷・飼料高騰となり資金借入で経営維持を図る組合員も多くいて厳しい年となりました。離農者を出さないために職員は組合員の声を聞き、厳しい状況はいつまでも続かないと思いますので我慢の営農を、今後どう乗り越えていくか、役職員が一丸となり取り進めていかなければならない』と挨拶がありました。岡本常務からは、12月1日～2日に実施された地区懇談会の概要について、資料に基づき説明がありました。また、職場研修(OJT)として冬道運転マナー研修を行いました。動画をしながら冬道運転の危険予知・事故回避トレーニングを行いました。中西総務部長より、危険予知の重要性、令和4年度津別町の事故状況、アルコールチェッカーについての説明がありました。



▲佐野組合長



▲岡本常務

離農者を出さないために職員は組合員の声を聞き、厳しい状況はいつまでも続かないと思いますので我慢の営農を、今後どう乗り越えていくか、役職員が一丸となり取り進めていかなければならない』と挨拶がありました。岡本常務からは、12月1日～2日に実施された地区懇談会の概要について、資料に基づき説明がありました。また、職場研修(OJT)として冬道運転マナー研修を行いました。動画をしながら冬道運転の危険予知・事故回避トレーニングを行いました。中西総務部長より、危険予知の重要性、令和4年度津別町の事故状況、アルコールチェッカーについての説明がありました。

女性部とフレッシュ・ミズ合同で豆腐作り講習会を開催

12月9日津別町食品加工研修センターにて豆腐作りを行いました。新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、女性部員8名、フレッシュ・ミズ会員1名が参加しました。後藤あけみ副部長より提供いただいた大豆8升を使い、大鍋2回分40丁の豆腐を作りました。毎年豆腐作りを行っていますが、今回も柔らかく美味しい豆腐が出来上がりました。



農薬講習会を開催

12月14日JAつべつ会議室にて組合員18名出席のもと農薬講習会を開催しました。坂田生産資材課長の挨拶の後、ホクレン北見支所生産資材課柴木職員から農業情勢の説明と、各農業会社からは農薬紹介及び防除技術について説明を頂きました。



【農業会社4社】

- ホクサン(株) 営業部営業一課 畠山職員より殺菌剤(ムケツDX・マスタピース水和剤・カピナイスPZ水和剤)
- 北興化学(株) 技術チーム 栗原職員より除草剤(レナスター水和剤)、殺虫剤(ビレスコ顆粒水和剤)、殺菌剤(ミリオネアフロアブル)
- クミアイ化学工業(株) 普及課 上田職員より除草剤(クタシーブフロアブル)、殺虫剤(クミガードSC)、殺虫剤(マブリックEW)、殺菌剤(ファンタジスタ顆粒水和剤)
- シンジェンタジャパン(株) 普及営業 佐藤職員より殺菌剤(ミラビスフロアブル・アミスターフロアブル・レーバフロアブル)、除草剤(フルミオWDG・デュアルゴールド)、殺虫剤(リーズン顆粒水和剤)

「令和5年営農年度 農業予約申込書」及び「補正肥料申込書」は、令和5年1月23日までに提出をお願い致します。



▲ホクレン北見支所生産資材課柴木職員



▲ホクサン(株)畠山職員



▲北興化学(株)栗原職員



▲クミアイ化学工業(株)上田職員



▲シンジェンタジャパン(株)佐藤職員

第十二回理事会報告

開催日 令和4年12月27日

報告事項

- ① 令和4年度四半期監査（10月末）結果について
- ② 令和4年11月末財務状況並びに決算予測について
- ③ 令和4年度第一回臨時総会の終了について
- ④ 令和4年度経営所得安定対策に係る仮渡金の支払実績について
- ⑤ 農業共済金の支払見込について
- ⑥ 農業振興基金の運用状況について
- ⑦ 融資実行状況の報告について
- ⑧ 令和4年度クミカン清算状況について
- ⑨ 固定資産の取得について
- ⑩ 固定資産の処分について（リース牛）
- ⑪ 各作物の状況及び生産者団体の活動状況について
- ⑫ 各課報告事項について

付議事項

- 議案第1号 美幌地方広域農業協同組合連合会に対する貸出について
 議案第2号 出資金の持分譲渡について
 議案第3号 コンプライアンス規程の改正について
 議案第4号 対策組合員に対する貸出について

協議事項

- ① 地区懇談会の意見集約と対応について
- ② 令和5年度基本方針並びに部門別重点方針について
- ③ 令和5年1～4月主要行事日程について

つべつ給油所

年末年始営業時間のお知らせ

12/30 (金)	【通常営業】	7:30 ~ 19:30
12/31 (土)	【時短営業】	7:30 ~ 17:00
1/1 (日)	【休業】	
1/2 (月)	【休業】	
1/3 (火)	【時短営業】	7:30 ~ 17:00
1/4 (水)	【通常営業】	7:30 ~ 19:30



知りタイガーのJA虎の巻

第29回 JA全国大会決議 JAグループの実践

【今回のテーマ】



「豊かで暮らしやすい地域共生社会」の実現に向けて、JAはどういったことに取り組んでいるの？

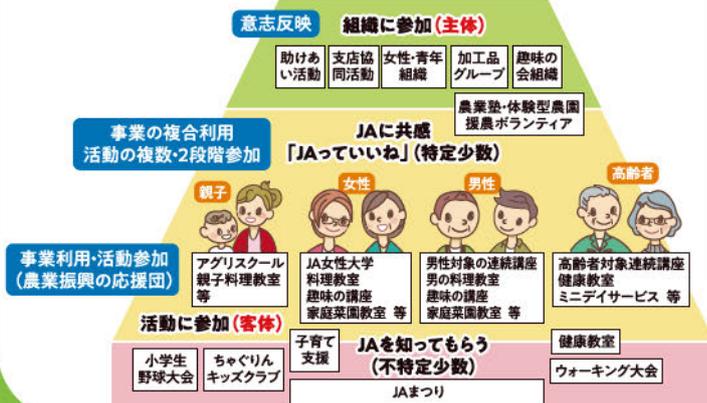
「豊かで暮らしやすい地域共生社会」の実現に向けては、地域の主役である組合員・地域住民とJAが連携した取り組みが重要です。



このためJAでは、1人でも多くの組合員・地域住民にJAのことを知ってもらい、共感してもらうための接点として、家庭菜園教室や親子料理教室、健康教室やミニデイサービスなどの「くらしの活動」を展開しています。

今後JAは、組合員・地域住民との関係性や年代、性別などに応じた、よりきめ細かな「くらしの活動」を検討・実践し、お互いの関係性のさらなる強化をすすめます。

JAくらしの活動による関係性づくりのイメージ



耕そう、大地と地域の未来。

農業者年金で安心・豊かな老後を

～農業者の老後は国民年金だけでは不安です～

◎農業に従事する方の老後の安心に役立ちます。

国民年金 + 農業者年金

◎こんな方が加入できます。

- ①国民年金第1号被保険者
- ②年間60日以上農業に従事
- ③20歳以上60歳未満の方



◎**積立方式**だから自分がかけた金額は年金として**生涯もらえます**。(仮に80歳前に亡くなった場合でも、死亡一時金が遺族に支給されます。)

◎保険料は **いつでも変更** できます。

月々2万円から6万7千円まで

◎支払った保険料は全額社会保険料控除となり、所得税や住民税等の **節税** になります。

◎**政策支援** (保険料の国庫補助) が受けられます。

例：認定農業者等で青色申告者で35歳未満の人は10,000円(5割)補助

詳しくは… [農業者年金基金](https://www.nounen.go.jp/) [検索](#) <https://www.nounen.go.jp/>

お問い合わせ・ご相談は

津別町農業委員会 TEL 77-8384
J A つ べ つ TEL 76-3322

命を育むために最も大事な「食」 SDGsの観点でも、自分事として捉えていきたい

なぜ今?
国消国産

世界の平和にも大切な「食」の安定

世界の紛争地域や自然災害の被災地で食料支援を行う「WFP」という国連機関が、2020年のノーベル平和賞を受賞しました。あらためて、食料の安定供給が、その国の安定や世界の平和にとっていかに大事であるかが示されました。受賞を報じるこちらの新聞記事にもあるように、世界の9人に1人が十分な食料を得られないといわれています。私たちは飢餓の実態を他人事のように捉えがちですが、自然災害や人口増加などによって、世界における食料の安定供給のリスクは、確実に高まっています。



出典：朝日新聞(2020年10月10日付)
朝日新聞社に無断で転載することを禁じます(承諾番号21-0896)

食料を輸入することについて、環境面からも考える意識

例えば、同じ100円のレモンでも、米国産と国産では何が違うのでしょうか? もちろん、味や品質も違いますが、米国産は1万キロ以上を大型船舶で、国産は数百キロをトラックで運んでおり、

輸送にかかるエネルギーや環境負荷が大きく異なります。食料を輸入するとはどういうことか、食料の安定という面だけではなく、環境面からも考える必要があります。

だから今!
国消国産

SDGsの達成にもつながる「国消国産」



「国」民が必要とし「消」費する食料は、できるだけその「国」で生「産」していくという「国消国産」をすすめることは、食料を輸入に依存しないということにつながり、ひいては、食料の安全保障と持続可能な農業の促進を目標とするSDGsのゴール2「飢餓をゼロに」や、ゴール12「つくる責任 つかう責任」、ゴール13「気候変動に具体的な対策を」にも通じるものです。

- ① 食料の安定は、世界の平和にもつながっていく
- ② 食料の輸入について、食料の安定という面だけでなく環境面も意識が必要
- ③ 「国消国産」で、SDGsの達成にも貢献

ここがポイント!



JAグループサポーター・林修



耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ

1月下旬・2月上旬の主な行事

1月	16日	月		2月	1日	水	経営会議
	17日	火	役員報酬等審議会、企画会議		2日	木	
	18日	水	営農組合連絡協議会総会 東山教授との協議会、法人会研修会		3日	金	
	19日	木	指導農業士との意見交換会		4日	土	第10回アイスクャンドルまつり
	20日	金			5日	日	
	21日	土			6日	月	
	22日	日			7日	火	
	23日	月	協業法人との意見交換会 監事研修会 (Web)		8日	水	フレッシュ・ミズ総会
	24日	火	経済常任委員会		9日	木	
	25日	水	総務常任委員会 フレッシュ・ミズ研修会		10日	金	
	26日	木			11日	土	建国記念日
	27日	金	理事会・農業者年金巡回相談会		12日	日	
	28日	土			13日	月	
	29日	日			14日	火	企画会議
	30日	月	年金友の役員会		15日	水	総務常任委員会・臨時理事会
	31日	火	決算棚卸監査		16日	木	決算監査(～21日)
					17日	金	肉牛振興会定期総会
					18日	土	
					19日	日	

新型コロナウイルスの影響により、中止・延期の場合があります。

年末年始の業務体制 (令和4年～令和5年)

	12/28(水)	12/29(木)	12/30(金)	12/31(土)	1/1(日)	1/2(月)	1/3(火)	1/4(水)	1/5(木)	1/6(金)	1/7(土)
事務所	平常	平常	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	平常	休業
活汲事業所	平常	平常	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	平常	休業
金融店舗	平常	平常	平常	休業	休業	休業	休業	平常	平常	平常	休業
堆肥製造施設	平常	平常	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	平常	平常
給油所	平常	平常	平常	平常 注)③	休業	休業	平常 注)③	平常	平常	平常	平常
(有)だいち (TMRセンター)	平常	平常	平常	休業	休業	休業	休業	平常	平常	平常	平常

備考

- ① 仕事納めは12月29日とします。(事務所・活汲事業所) ※金融店舗については12月30日となります。
- ② 仕事始めは1月6日とします。(事務所・活汲事業所) ※金融店舗については1月4日からとなります。
- ③ 給油所は12月31日と1月3日は午前7時30分～午後5時までの営業とし、元日・1月2日は休業とします。4日から平常営業です。